序　　文

東京大学医学部
井　上　英　二

我が国をはじめ，世界の多くの国々における近年の医療水準の向上はめざましい。かつては致死的とされた疾患でさえ，現在の医療技術をもってすれば十分な治療効果が望めるものが少なくない。また予防医学の進歩によって，多くの感染症が確実に予防できるものとなった。一見，健康水準は向上し，医学の目的は達成されつつあるようにみえる。しかしこの状況は，すべての疾患の予防と治療の方法が同等に進歩したことを意味するものではない。

すべての疾患をその原因によって分類すれば，感染症や栄養障害を代表とする外的要因が主役となって生じるもの，遺伝病を代表とする内的要因が主役となって生じるもの，およびある種の慢性疾患によって代表される遺伝的要因と外的要因の両者が主役となって生じるものの３群に分けることができる。今までの医学が克服しつつある疾患は，その中，外的要因が主役となって生じるものが大部分であった。人類は，第２，第３の群に属する多くの疾患によって，依然として重い負担を荷っているのが現在の状況である

厚生省心身障害研究補助金による心身障害の遺伝学的研究は，このような背景をもって開始されたものである。すでに，昭和４９年度より３年間，第一次遺伝研究班によって「心身障害の発生予防に関する遺伝学的研究」が行なわれた。この研究は，当初に予想された以上の成果を上げたが，同時に将来に向っての展望を開くことができた。以上の経過を経て，昭和５２年度に，第二次遺伝研究班が組織され，「遺伝・環境要因による心身障害の予防に関する研究」が開始されたのである。

本研究は，昭和５４年度まで，３年間継続されることになっているが，その初年度の活動についての報告を盛ったものが本書である。本書が，引続き刊行されるであろう第２年度，第３年度の報告書とともに，今もなお国民の重い負担となっている疾患に関して種々の方策を樹立する際の資料として活用されるならば大きな喜びである。

なお，この研究班の計画策定と運営，および本報告書の作成に当っては，半田順俊教授（和歌山医科大学），渡辺厳一教授（新潟大学），北川照男教授（日本大学），松永英部長（国立遺伝学研究所），和田義郎教授（名古屋市立大学）に一方ならぬお骨折を頂いたことを記し，感謝の意を表したい。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

我が国をはじめ,世界の多くの国々における近年の医療水準の向上はめざましい。かつては致死的とされた疾患でさえ,現在の医療技術をもってすれば十分な治療効果が望めるものが少なくない。また予防医学の進歩によって,多くの感染症が確実に予防できるものとなった。一見,健康水準は向上し,医学の目的は達成されつつあるようにみえる。しかしこの状況は,すべての疾患の予防と治療の方法が同等に進歩したことを意味するものではない。